

研究室名
18-4-6 地球物質研究室
最近の研究課題とその取り組みの概要
<p>地球圏科学科地球物質研究室では、火成活動に伴う地球深部のマントルから地表までの物質移動や特定成分の濃集の過程を対象とした研究を行っている。</p> <p>沈み込み帯火成活動に伴う水のリサイクルについて、地質学的、岩石学的、地球化学的立場から解明することを目指している。特に、海洋プレート構成岩石や火山岩中に含まれるホウ素などのトレーサー元素に着目し、マントル-地殻間の水循環について研究している。主な調査地域は、九州～西南日本弧である。その他、過去に超巨大噴火を発生したカルデラ火山を対象として、地殻内における膨大な体積のマグマの生成・集積プロセスを明らかにすべく、火山学、岩石学、地球化学的研究を行っている。主な調査地域は、阿蘇、始良などの九州のカルデラ火山である。</p> <p>また、大陸地殻を特徴づける珪長質深成岩の生成・定置・崩壊過程を、岩石学的、同位体年代学的見地から研究を行っている。研究対象地域は北部九州地域のみならず、タイ、南極も含まれる。さらに、内陸型地震発生のメカニズムの解明のため、断層帯周辺の珪長質深成岩に発達する断裂系の構造解析も行っている。地質体の崩壊過程（風化・削剥）に伴う研究では、元素移動過程およびその人間活動との関係を解析するため、川砂を用いた福岡県における地球化学図の作成と地圏環境評価を行っている。岩石の化学分析手法を考古学に応用し、弥生時代の層灰岩製石器の石材産地の推定も行っている。</p> <p>キーワード：火山岩・沈み込み帯・水循環・カルデラ・深成岩岩石学・構造解析・地球化学図</p>
研究室の構成員
<p>三好 雅也（教授）・博士（理学）</p> <p>柚原 雅樹（助教）・博士（理学）</p>
2020年度の大学院生および卒論生の人数と研究テーマ
<p>教員の担当科目</p> <p>三好 雅也：(学部) 地球科学 I、地球物質循環学 I、地球物質循環学 II、地球圏科学入門、新しい地球観、新しい地球観「BB」 地球科学野外演習、地球科学野外実習、卒業論文 (大学院) 地球変動科学特論 I</p> <p>柚原 雅樹：(学部) 地球科学実験、地学実験、地球物質科学実験 I、地球物質科学実験 II、地球科学野外演習、地球科学野外実習、卒業論文</p>
教員の所属学会
<p>三好 雅也：日本地質学会、日本火山学会、日本地球化学会、日本地学教育学会、 日本地球惑星科学連合、Geochemical Society、American Geophysical Union</p> <p>柚原 雅樹：日本地質学会、日本鉱物科学会、日本地球化学会、地学団体研究会</p>

最近5年間の学術論文

- 柚原雅樹・梅崎恵司・森 貴教・川野良信 (2020) 北部九州, 下部白亜系脇野亜層群のいわゆる層灰岩の全岩化学組成. 地球科学, 74, 157-170 (査読有).
- 柚原雅樹・亀井淳志・川野良信・岡野 修・早坂康隆・加々美寛雄 (2020) 北部九州白亜紀花崗岩類, 落合花崗閃緑岩杷木岩体 (杷木花崗閃緑岩) のU-Pbジルコン年代とSr・Nd同位体比組成. 地球科学, 74, 83-98 (査読有).
- 木村棟浩・川野良信・鮎沢 潤・柚原雅樹 (2020) 埼玉県比企丘陵, 中新世堆積岩類の地球化学的研究. 地球環境研究, 22, 25-33.
- 深川礼弥・三好雅也・藤井純子・佐野貴司 (2020) 福井県三国海岸に分布する暗色火山岩礫の記載岩石学的特徴および全岩化学組成. 福井大学地域環境研究教育センター研究紀要「日本海地域の自然と環境」, 27, 15 - 25.
- 柚原雅樹・水田史也・西 瑛莉子・清浦海里・亀井淳志・川野良信・岡野 修・早坂康隆 (2019) 北部九州白亜紀花崗岩類, 真崎花崗岩の化学組成と活動時期. 地球科学, 73, 163-178 (査読有).
- 柚原雅樹・亀井淳志・川野良信・岡野 修・早坂康隆・加々美寛雄 (2019) 北部九州白亜紀花崗岩類, 添田花崗閃緑岩のU-Pbジルコン年代とSr・Nd同位体比組成: 添田花崗閃緑岩の再区分. 地質学雑誌, 125, 405-420 (査読有).
- 柚原雅樹・梅崎恵司 (2017) 北九州市, 城野遺跡に露出する阿蘇-4火砕流堆積物中の軽石の全岩化学組成. 福岡大学理学集報, 47, 105-118.
- Tsukada, K., Yuhara, M., Owada, M., Shimura, T., Kamei, A., Kouchi, Y. and Yamamoto, K. (2017) A low-angle brittle shear zone in the western Sør Rondane Mountains, Dronning Maud Land, East Antarctica - Implication for assembly of Gondwanaland. J. Geodynamics, 111, 15-30 (査読有) .
- 柚原雅樹 (2017) 伊那領家変成帯, 勝間石英閃緑岩, 非持トーナル岩および落合花崗岩の主成分ならびに微量元素組成. 福岡大学理学集報, 47, 33-44.
- 柚原雅樹 (2016) 伊那領家変成帯, 太田切花崗岩類の主成分ならびに希土類元素組成. 福岡大学理学集報, 46, 69-76.
- 柚原雅樹・岡野 修・川野良信 (2016) 志賀島塩基性岩類のSr・Nd同位体比組成. 地質学雑誌, 122, 505-508 (査読有) .
- 梅崎恵司・柚原雅樹 (2016) 弥生石器の層灰岩. 考古学は科学か 田中良行先生追悼論文集, 397-414.

最近5年間の学術著書

- 唐木田 芳文・柚原雅樹・木戸道夫・角縁 進・森山栄一: 第V章 原田地区遺跡群出土石臼の材質について. 筑紫野市教育委員会 (編) 原田地区遺跡群4 -原田駅前土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告6-, 筑紫野市文化財調査報告書 第114集, 2018年3月, 46-61.

最近5年間の学術国際会議での発表

- Kamei, A., Owada, M., Horie, K., Shimura, T. Yuhara, M. and Tsukada, K. Pan-African high-K

adakitic intrusion in the Sør Rondane Mountains, East Antarctica. International Association for Gondwana Research 2019 Convention & 16th International Symposium on Gondwana to Asia, Kochi (November, 2019)

最近5年間の代表者としての学外資金導入実績

三好 雅也：日本学術振興会・科研費・若手研究 (B)「ジオパークにおけるマグマ生成実験を活用した地学教育手法の開発」・320万円 (直接経費)・2017年度～2021年度
柚原 雅樹：日本学術振興会・科研費・基盤研究 (C)「東南極に産する花崗岩類の精密解析による大陸衝突過程における火成活動の変遷解明」・370万円 (直接経費)・2013年度～2016年度

最近5年間の代表者としての学内資金導入実績

該当なし

最近5年間の学会等学術団体における役職など

三好 雅也：日本火山学会学校教育委員 (2012年7月1日～現在)
国際学術誌 Frontiers in Earth Science (Petrology) Review Editor
(2014年7月1日～現在)
日本地質学会編集委員 (2020年5月23日～現在)
柚原 雅樹：地学団体研究会 会長 (2018年8月18日～2020年11月8日)

最近5年間の一般向け論文と著書、行政報告書など

該当なし

最近5年間の一般 (非学術) 集会での発表論文

最近5年間の学術団体以外の団体での啓蒙活動や社会貢献活動とその役職など